マ　ン　グ　ロ　ー　ブ

Oriental mangrove / *Bruguiera gymnorhiza* / Ohirugi / オヒルギ

オヒルギは奄美大島などの南の島のマングローブ林に多く群生し、高く育つことはできるが、ほとんどの木が10m ほどまで成長する。樹皮は荒く、灰色かかった茶色で、先端が尖っている楕円形の葉は濃い緑色で、木の近くに形成される根は地面から突き出て空気を吸収する膝根となる。そのため、ギリシャ語の学名「gymno（裸）」と「rhiza（根）」を合わせた名前である。萼はピンクや濃い赤等があり、先端が裂けていて、種子は木に付いたまま成熟し、落ちる。

Oval-leaf mangrove / *Kandelia obovata* / Mehirugi / メヒルギ

奄美大島の住用マングローブ林や日本の南の島に多く自生するマングローブ樹種のメヒルギは高さ 8m程度となるが、ほとんどは小さめである。樹皮は濃い茶色で、葉は光沢のある鮮やかな緑で、根は板根状になり、幹の周囲に呼吸根の層で接種する塩分をろ過する。白い花は星型の萼をもち、種子は発芽後、木に付いたまま成熟し、長い鞘状の実となり、落ちる。種子は潮により遠くまで運ばれることが多く、良い場所にたどり着くと根を下ろし、成長する。